Ⅳ-21

市街地整備の仕組みと景観形成の関係について

足利工業大学大学院　学生員　倉持正行
足利工業大学工学部　正会員　中川三朗
足利工業大学大学院　学生員　高野宏一

1. はじめに

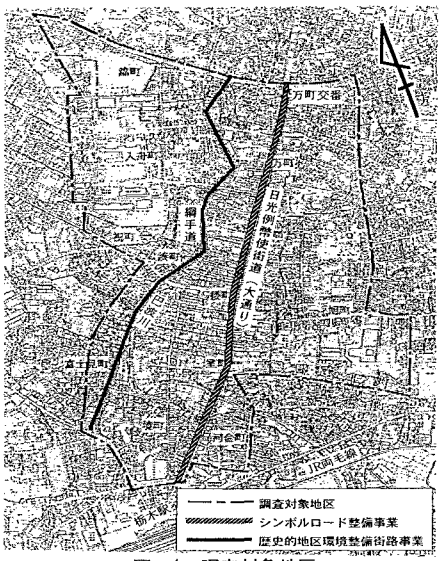
近年、各都市では、既成市街地において都市景観の整備や良好な都市環境の創出等を目的として様々な整備事業が実施されている。その結果として形成された街路や建物等により現在の都市景観が形成されている。

都市景観が形成されるまでには、様々な委員会等が組織され調査や整備の検討が行われる。その結果として整備計画が策定され整備事業が実施されている。

そこで本研究では、栃木県栃木市の中心市街地における街路整備事業や建物の整備事業に着目し、市街地整備の仕組みと景観形成の関係について考察を行う。

2. 調査対象地区の概要

栃木市は、栃木県南部に位置しており、日光例幣使街道(以下大通りという)の宿次伝馬駅として発展し、街道沿いに街並みが形成されてきた。また、巴波川を利用した舟運により商都としても発展した。本研究の調査対象地区は、市街地形成に影響を及ぼした大通りや巴波川周辺の地区約85haとした(図-1)。



図－1　調査対象地区

Keywords:市街地整備,整備事業,都市景観

〒326-8558　栃木県足利市大前町 268-1

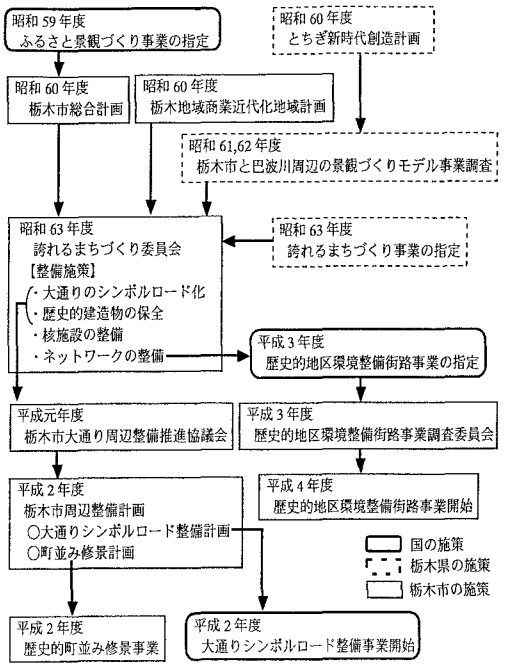
3. 市街地整備の仕組みについて

栃木市の市街地整備の仕組みを把握するために、対象地区内で実施された整備事業を取り上げ、報告書および計画書に基づき、委員会や整備事業等を経年的に整理した(図－2)。

図－2 を基に市街地整備の仕組みと景観形成の関係について分析を行う。

昭和 59 年度に国土庁から「ふるさと景観づくり事業」の指定を受けた。これにより巴波川を中心とする街づくり計画が策定され、巴波川沿いの綱手道が整備された。

栃木市は、昭和 60 年度に「栃木市総合計画」を策定した。この中で巴波川沿いの水辺のみち(蔵の街散歩道)や大通り沿道を観光商業核にするなどの位置づけがなされている。また、同時期に策定された「栃木地域商業近代化地域計画」では、蔵の街並みなどの景観を活かした商業の活性化が提唱されている。



図－2　栃木市の市街地整備の変遷

一方、栃木県では昭和 60 年度に「とちぎ新時代創造計画」を策定した。その中で栃木市は、県南地域の栃木圏域に位置づけられており、街並みなど歴史的･文化的遺産に恵まれていることから、歴史的･文化的遺産を活用した個性的なまちづくりを促進することが求められている。この栃木県の総合計画に基づき県土木部により昭和61,62年度に「栃木市と巴波川周辺の景観づくりモデル事業調査」が行われた。この調査の結果として、巴波川と大通りの歴史的景観を活用した計画が策定された。

昭和 63 年度に栃木県より「誇れるまちづくり事業」の指定を受けた。この事業では、今までの調査を踏まえ、市内よりモデル地区を選定し、市の個性である歴史的景観を活用したまちづくりを計画した。この調査を進めるにあたり、「栃木市誇れるまちづくり委員会」を設置した。

誇れるまちづくりのテーマは、蔵の街並みや巴波川を市の個性と考え、巴波川･蔵のまちルネッサンスと設定された。設定されたテーマの実現に向け 4 つの整備施策が挙げられている。この整備施策で挙げられた大通りのシンボルロード化と歴史的建築物の保全整備の具体的な計画を作成するために、平成元年度に「栃木市大通り周辺整備推進協議会が」組織された。この協議会では、蔵の街並みと大通りの一体的な整備を目的に、大通りシンボルロード整備計画と町並み修景計画をまとめ、平成 2 年度に「栃木市大通り周辺整備計画」を策定した。この整備計画に基づき平成 2 年度から、「大通りシンボルロード整備事業」が実施された。整備範囲は、万町交番から栃木駅に向かって 1,250m の大通り沿線が対象となっている。また、「栃木市歴史的町並み景観形成要綱」が策定され、蔵などの歴史的建造物の修景が行われた。

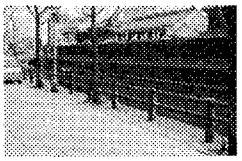
平成 3 年度には、建設省より「歴史的地区環境整備街路事業」の指定を受けた。この事業では、巴波川と蔵の街並みが一体となり、ネットワークを形成することをねらいとしている。調査は、「歴史的地区環境整備街路事業調査委員会」を組織して実施された。地区内の景観整備は、蔵の街や巴波川を活用した整備を行い、道路景観と街並み景観を含めた道すじ整備を促進することや道路全体のネットワークの形成を図ることを考えている。整備路線は、町並みと道づくりが一体的に整備ができる道路として、巴波川右岸下の綱手道に設定された。この整備は、道路整備を先行させ、その整備効果として町並み整備を誘導させることをねらいとしている。この整備事業は、誇れるまちづくり事業の整備施策で挙げられていたネットワークの整備を目的に導入された。

4. 都市景観の整備について

シンボルロード整備事業では、大通りに設置されていたアーケードの撤去や電柱の地中化、アスファルト舗装であった歩道を御影石舗装にするなどの整備により公空間が変わった。また、歴史的建造物修景整備事業により、民空間の蔵の整備が実施され、蔵が強調されるようになった(写真-1)。しかし、町並み整備は、計画通りには進んでおらず、所々にしか蔵の街並みは望めない。

歴史的地区環境整備街路事業では、巴波川右岸下の綱手道の整備が実施された。整備により、自然石や小補石を用いた舗装に変わり、歩行者優先の道路として整備がなされた(写真-2)。また、ポケットパークの整備も実施された。しかし、計画段階で景観阻害要素と考えられていた電柱や電線類が現存しており景観を阻害している。

写真－1　整備後の大通り



写真－2　整備後の綱手道

5. おわりに

栃木市の市街地整備は、大通り・巴波川・蔵を市の個性と考え、これらを活用できるように調査や計画の段階で考慮している。これらの結果、市の個性を活用したまちづくりが計画され、様々な整備事業を実施している。市の個性を活かしたまちづくりを進めるという考え方が、委員会や整備事業につながりを持たせていると考えられる。

景観整備は、公空間と民空間の一体的な整備を進める計画であった。しかし、公空間の整備が先行しており、民空間の整備が遅れていると思われる。また、整備が先行している公空間でも、計画段階で景観の阻害要素と考えられていた電柱や電線類等は、大通り沿いしか地中化されなかった。